

平成20年度 飛騨・美濃じまん運動の進捗について

岐阜県

みんなで作ろう観光王国飛騨・美濃条例

(平成19年7月9日 条例第39号)

第17条 県は、毎年度、じまん運動の成果を白書としてまとめ、評価や検証をし、次の運動につなげていきます。

目次

	P
第1章 トピックス	1
1 東海北陸自動車道の全線開通 ～大交流時代の始まり～	1
2 「小坂の滝めぐり」を“岐阜の宝もの”第1号に認定	2
第2章 岐阜県の観光の現状と課題	3
1 本県の観光の現状 ～平成20年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果～	3
2 飛騨・美濃じまん運動実施計画に掲げる目標の進捗状況と今後の課題	8
第3章 「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組	13
1 平成20年度に実施した主な施策	13
(1) 新たな「じまん」の掘り起こし	13
(2) 観光客の増加に向けた取組	15
(3) 県産品、農林産物のブランド力・販売力強化	19
(4) まちづくり・地域づくり支援	25
(5) ふるさとの誇りづくり	28
(6) 飛騨・美濃じまん運動のPR等	29
2 飛騨・美濃じまん運動の推進体制	30
参考資料	34
みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例	34

1

トピックス

1 東海北陸自動車道が全線開通 ～大交流時代の始まり～

東海と北陸の2つの経済圏を結ぶ東海北陸自動車道が、平成20年7月5日に全線開通した。

貫通までに約9年半を費やした飛騨トンネル（全長10.7km。国内道路トンネル第2位の長さ。）などの難工事乗り越え、着工から36年を経ての全線開通となった。

東海北陸自動車道の全線開通は、地域経済の活性化や地域連携の推進など様々な面で、波及効果が期待されていた。

平成20年の本県への観光客数（実人数）について、東海北陸自動車道全線開通の前後で比較すると、全通前の1～6月期は前年同期を下回っていたが、全通後の7月～12月期は増加に転じており、地域別にみても沿線地域である中濃、飛騨で観光客数の増加がみられるなど、全通による効果が見受けられる。

しかしながら、同じ圏域内でも観光地点別でみると、白川郷合掌集落（白川村）が、

東海北陸自動車道全通前後 観光客・宿泊客数比較（単位：千人）

		観光客数（実人数推計）		宿泊客数	
		全通前（1～6月）	全通後（7～12月）	全通前（1～6月）	全通後（7～12月）
県計	平成19年	24,136	28,705	1,942	2,370
	平成20年	23,661	30,631	1,833	2,327
	対前年比	98.0%	106.7%	94.4%	98.2%
岐阜	平成19年	5,580	7,350	383	437
	平成20年	5,639	7,126	327	387
	対前年比	101.1%	97.0%	85.5%	88.4%
西濃	平成19年	5,975	5,861	116	123
	平成20年	5,673	5,976	106	129
	対前年比	95.0%	102.0%	91.5%	104.9%
中濃	平成19年	4,481	5,588	239	308
	平成20年	4,326	5,874	236	313
	対前年比	96.5%	105.1%	98.5%	101.4%
東濃	平成19年	4,960	6,001	187	249
	平成20年	4,919	7,046	182	250
	対前年比	99.2%	117.4%	97.1%	100.4%
飛騨	平成19年	3,140	3,905	1,016	1,251
	平成20年	3,104	4,610	982	1,248
	対前年比	98.9%	118.0%	96.7%	99.8%

平成20年岐阜県観光レクリエーション動態調査



全線開通した東海北陸自動車道「飛騨清見JCT」付近。写真上が至富山。右が至高山。

白川郷合掌集落（白川村）が、年間の観光入り込み客数が前年と比べて32.7%の増加、全通以降の7-12月期については前年同期と比べて47.1%の増加と、全通効果により大幅に入り込み客数を伸ばしたのに対し、ICから離れた、飛騨古川の古い町並み（飛騨市）では、通年で2.7%の減、7-12月期では6.1%の減となった他、IC近辺でも、道の駅桜の郷荘川（高山市）では通年で27.1%の減、7-12月期では44.7%の大幅な減少となるなど、全通の影響が、明暗が分かれる結果となった。

また、宿泊客については、全

線開通前後ともに前年より減少しているが、全線開通後には減少幅が縮小しており、一定の全線開通の効果があったと考えられる。しかし、交通の利便性向上により目的地までの到達時間が早まり、これまでの立ち寄り客、宿泊客が単なる通過客、日帰り客となってしまっている現象もみられる。

今後、東海北陸自動車道を本県の観光振興に最大限に活用していくためには、観光客の滞在時間を延ばすための新たな観光資源の発掘や、もてなし力の向上、宿泊してもらえる魅力的な地域づくり、滞在型モデルコースづくり、旅行エージェントに対する宿泊旅行商品造成に向けた働きかけなどを、総合的に進めていくことが必要と考えられる。

2 新たな「岐阜の宝もの」を選定 ～第1号は「小坂の滝めぐり」！～

平成19年秋に、**新たな岐阜県の“じまん”**の発掘・育成を目的にスタートした「岐阜の宝もの認定事業」。

「あなたの思う岐阜のじまんなはなんですか？」との募集に対し、県内外から1240件の応募があった。

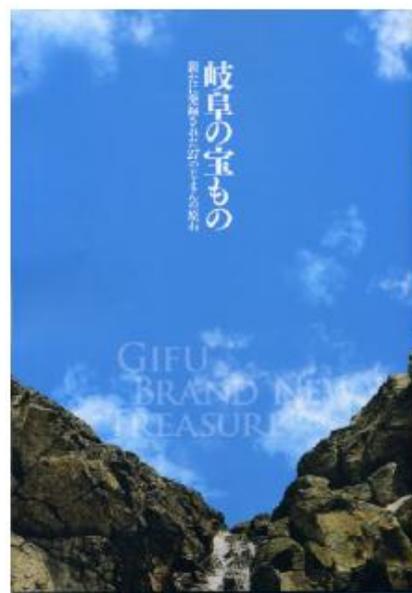
平成20年3月には、その中から、県内5地域の会議で絞り込みを行い、まちづくりやマーケティングなどの専門家の方々の意見を踏まえ、今後の観光振興につながるものを「じまんの原石」として27件を選定。

そして、平成20年8月に、27件の「じまんの原石」の中から、今後全国に通用する県民が誇るじまんとなるものを「岐阜の宝もの」として1件認定。さらに、現時点では「岐阜の宝もの」には認定できないものの、今後の取り組みによっては「岐阜の宝もの」となると期待されるものを「明日の宝もの」を4件認定した。

栄えある「岐阜の宝もの」第1号に認定されたのは、霊峰御嶽山の中腹からふもとにかけて流れる溪谷に大小200を超える滝をめぐる「小坂の滝めぐり」。滝の数が日本屈指であり、圧倒的な自然を体感できる資源であることや、「下呂温泉」や「龍の瞳」など、周辺の観光資源と結びつけることで、さらに磨きをかけることができること、さらには、NPOによる環境整備やガイドツアーを実施していく体制が確立されていることが評価されての選定となった。

また、「明日の宝もの」には、「中山道」、「川原町界限」、「郡上鮎」、「八百津のおやつ」の4件が認定された。

今後、県民が一体となって、さらなる魅力向上に取り組み、岐阜県の宝ものから、日本の宝ものへ、さらには世界の宝ものへ発展していくことが期待される。



岐阜の宝もの（新たに発掘された27のじまんの原石）ガイドブック。

2

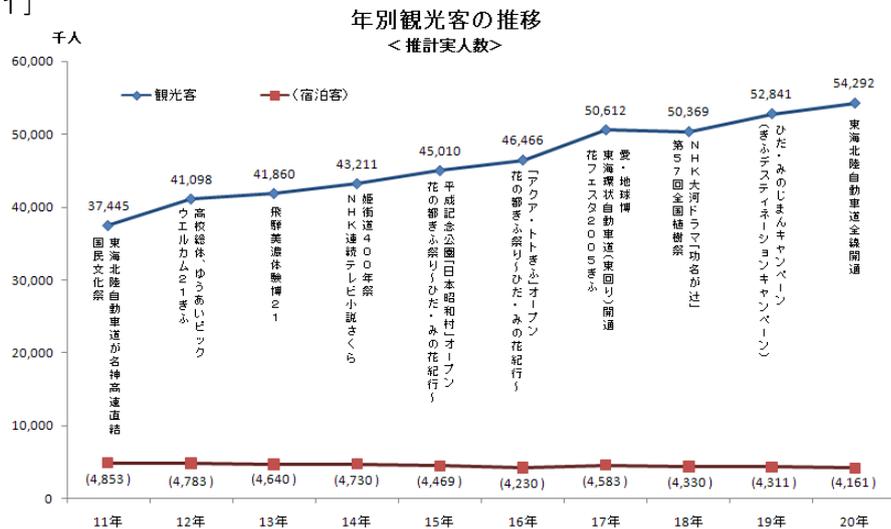
岐阜県の観光の現状と課題

1 本県の観光の現状 ～平成20年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果～

(1) 観光入り込み客数 ～過去最高となった、観光入り込み客数～

平成20年の本県の観光入り込み客数は、前年と比較して、145万1千人増加（前年比+2.7%）の5,429万2千人（推計実人数）となり、過去最高（現在の統計手法となった平成9年以降）の入り込みとなった。[図1]

[図1]



出展)「平成20年岐阜県観光レクリエーション動態調査」

※) 推計実人数：同じ観光客が県内の複数の観光地点を訪れたり、2泊以上宿泊したとしても、実際の観光客数は一人であることから、延べ観光客数からパラメータを用いて推計する。

「食」と「温泉」をテーマとする「飛騨・美濃じまん観光キャンペーン」や、中日本高速道路株式会社と共同で実施した観光PRキャラバンなどの誘客事業の展開に加え、7月に東海北陸自動車道が全通したことが、入り込み客数を押し上げた。

集客数の県内トップは、前年に引き続き土岐プレミアム・アウトレットの431万人となり、以下6位までは前年と同じ結果となったが、前年9位であった白川郷合掌造り集落が、東海北陸道全通効果により前年比3割以上の増加となり、7位に上昇した。[表1]

[表1] 観光地点別入り込み客数順位(ベスト10)

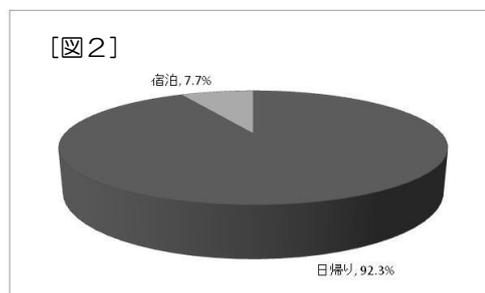
順位	観光地点名	観光客数(千人)	前年順位
1	土岐プレミアム・アウトレット	4,310	(1)-
2	河川環境楽園(アクアト含む)	4,179	(2)-
3	高山地域	2,723	(3)-
4	千代保稲荷神社	2,080	(4)-
5	世界イベント村ぎふ	1,764	(5)-
6	千本松原・国営木曽三川公園	1,713	(6)-
7	白川郷合掌造り集落	1,648	(9)↑
8	伊奈波神社	1,531	(7)↓
9	下呂温泉	1,295	(8)↓
10	谷汲山華厳寺	840	(11)↑

出展)「平成20年岐阜県観光レクリエーション動態調査」

(2) 観光客の内訳 ～宿泊客数は減少～

①日帰り・宿泊別観光客数

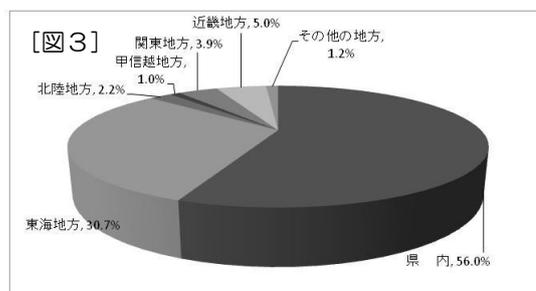
平成20年の観光客数は5,429万2千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は5,013万1千人、宿泊客は416万1千人と日帰り客が全体の92.3%を占めており、昨年よりも日帰り客の割合が0.5ポイント増加した。[図2]



圏域別に見ると、岐阜、西濃、中濃、東濃は日帰り客が9割以上を占める一方、飛騨圏域は、日帰り客71.1%、宿泊客28.9%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客416万1千人のうち223万1千人と全体の53.6%を占めた。

②居住地別観光客数

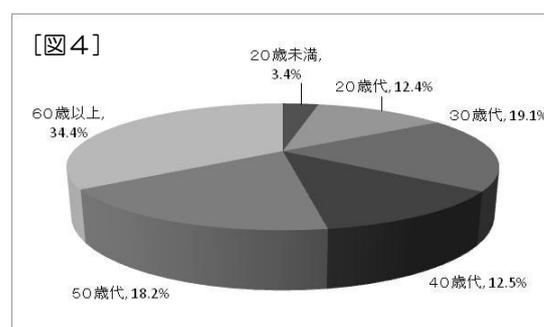
居住地別に見ると、県全体では県内客は3,039万5千人（構成比56.0%）、県外客は2,389万7千人（構成比44.0%）と、県内客が多くを占めたが、飛騨圏域では県外客の割合が67.5%と高い。



県全体の県外客のうち、69.8%が東海地方からの観光客で最も多く、以下近畿地方、関東地方と続いている。[図3]

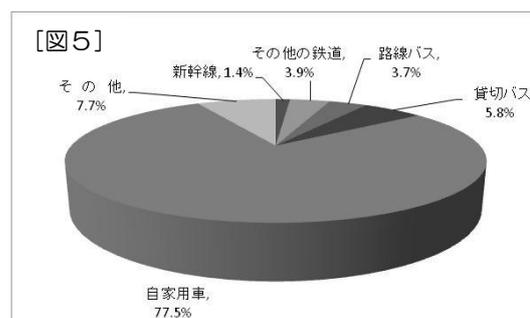
③男女別・年齢別観光客数

男女別で見ると、男性が2,526万5千人（構成比46.5%）に対し、女性は2,902万7千人（構成比53.5%）と女性が上回り、前年（男性51.6%、女性48.4%）と比べて女性の割合が大幅に増加した。年齢別では、60歳以上が34.4%と最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている。[図4]



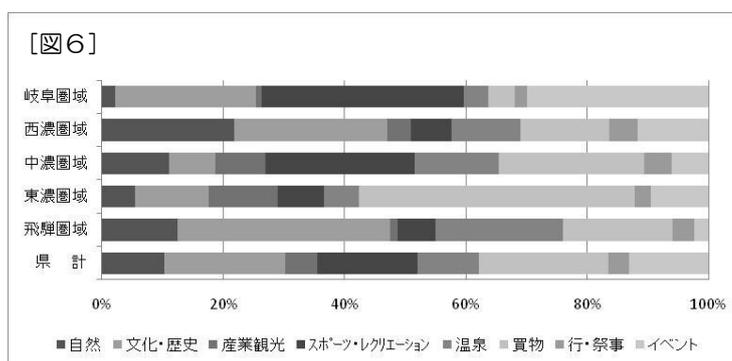
④利用交通機関別観光客数

利用交通機関別に見ると、前年に引き続き自家用車が最も多く全体の77.5%を占めたが、前年より減少する一方、路線バス（前年比+56.0%）及び、貸切バス（前年比+30.9%）は増加した。[図5]



⑤観光地分類別観光客数

観光地分類別に見ると、「買物」と「文化・歴史」で全体の40%以上を占め、以下「スポーツ・レクリエーション」、「イベント」、「自然」、「温泉」、「産業観光」、「行・祭事」と続く。圏域別で見ると、岐阜圏域は「スポーツ・レクリエーション」や「イベント」、西濃圏域は「文化・歴史」や「自然」、中濃圏域は「スポーツ・レクリエーション」や「買物」、東濃圏域は「買物」、飛騨圏域は「文化・歴史」や「温泉」が多い。[図6]



(3) 各圏域の動向 ～東濃、飛騨が大幅に増加～

①岐阜圏域

- ・観光客数は1,276万5千人で、前年と比べて165千人の減少(対前年比▲1.3%)となった。このうち、日帰り客数は1,205万1千人となり、前年に比べ5万8千人減少(対前年比▲0.5%)し、宿泊客数も71万4千人と10万6千人減少(対前年比▲13.0%)した。
- ・観光地点別では、岐阜シティ・タワー43が通年(前年は10月にオープンしたため3ヶ月間)の入り込みとなり増加したが、夏場の猛暑と原油高等が影響して、河川環境楽園や長良川花火大会など主要観光地点で入り込みが減少し、根尾川花火大会も雨天であったため減少した結果、圏域全体としては減少となった。

②西濃圏域

- ・観光客数は1,164万9千人で、前年と比べて18万7千人の減少(対前年比▲1.6%)となった。このうち、日帰り客数は1,141万3千人となり、前年に比べ183千人減少(対前年比▲1.6%)し、宿泊客数も23万5千人と4千人減少(対前年比▲1.6%)した。
- ・観光地点別では、いびがわマラソンでの増加(対前年比+177.8%)はあったものの、養老公園や伊吹山ドライブウェイ等の入り込みが原油高や景気の後退等を理由に減少し、圏域全体では減少となった。

③中濃圏域

- ・観光客数は1,019万9千人で、前年と比べて13万人の増加(対前年比+1.3%)となった。このうち、日帰り客数は965万1千人となり、前年に比べ12万9千人増加(対前年比+1.4%)し、宿泊客数も54万8千人と1千人増加(対前年比

+0.1%) した。

- ・観光地点別では、7月の東海北陸自動車道の全通により、牧歌の里など沿線観光施設で増加が見られたほか、年初の降雪量の増加とスノーボードW杯効果などからスキー客が増加し、圏域全体の観光客数を押し上げた。

④東濃圏域

- ・観光客数は1,196万5千人で、前年と比べて100万5千人の増加（対前年比+9.2%）となった。
このうち、日帰り客数は1,153万3千人と、前年に比べ100万9千人増加（対前年比+9.6%）したが、宿泊客数は43万2千人と、5千人の減少（対前年比▲1.0%）となった。
- ・観光地点別で見ると、前年に引き続き集客数県内トップとなった土岐プレミアム・アウトレットが増加したほか、セラミックパークMINOで開催された国際陶磁器フェスティバルや、中津川市の中心市街地で始まった六斎市などのイベントが開催され、日帰り客数を押し上げた。

⑤飛騨圏域

- ・観光客数は771万3千人で、前年と比べて66万9千人の増加（対前年比+9.5%）となった。
このうち、日帰り客数は548万3千人と、前年に比べ70万5千人増加（対前年比+14.7%）したが、宿泊客数は223万1千人と、3万6千人の減少（対前年比▲1.6%）となった。
- ・観光地点別に見ると、7月の東海北陸自動車道の全通により、白川郷周辺地点の入り込みが大幅に増加したほか、高山市の古い町並みでも増加した。
一方、東海北陸自動車道沿線であっても荘川や清見の観光施設は減少したほか、下呂温泉も減少した。
- ・「岐阜の宝もの認定事業」において、8月に「岐阜の宝もの」第1号に認定した「小坂の滝めぐり」では、拠点施設である下呂市小坂町の「がんだて公園」の入り込み客数が、前年より約2万2千人増加（対前年比+15.9%）した。

[表2] <観光客実人数(推計)>

(単位:千人、%)

	日帰り客数	宿泊客数	観光客数(合計)	対前年比
岐阜圏域	12,051	714	12,765	▲1.3
西濃圏域	11,413	235	11,649	▲1.6
中濃圏域	9,651	548	10,199	+1.3
東濃圏域	11,533	432	11,965	+9.2
飛騨圏域	5,483	2,231	7,713	+9.5
合計	50,131	4,161	54,292	+2.7

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

(4) 外国人延べ宿泊客数の動向 ～過去最高を記録～

外国人の延べ宿泊客数について、267,934人で、前年と比べて46,961人の増加(対前年比+21.3%)となり、過去最高を記録した。

最も増加人数が多い圏域は、飛騨圏域で、37,390人増加(前年比+24.7%)したが、他の4圏域も全て増加した。

[表3] <外国人延べ宿泊客数の年別推移> (単位：人)

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
岐阜圏域	32,783	48,419	35,340	40,047	41,444
西濃圏域	6,441	28,575	23,194	22,177	23,469
中濃圏域	5,622	8,750	4,974	5,309	9,775
東濃圏域	1,689	5,697	1,736	2,183	4,599
飛騨圏域	46,831	103,646	122,453	151,257	188,647
県計	93,366	195,087	187,697	220,973	267,934

※1人の宿泊客が圏域内または県内の2箇所で宿泊する場合、圏域内または県内で2連泊する場合、宿泊客はそれぞれ2人と数える

(5) 観光消費額 ～日帰り客分が増加したものの全体では減少～

平成20年の観光消費額の総額は286,290百万円(対前年比▲1.4%)で、そのうち日帰り客分は190,192百万円(対前年比+5.9%)、宿泊客分は96,098百万円(対前年比▲13.3%)であった。

また、1人当たりの平均消費額は、日帰り客は3,794円(対前年比+2.6%)、宿泊客は23,096円(対前年比▲10.2%)であった。

宿泊客数が減少し、さらに宿泊客一人当たりの平均消費額が減少したことが、全体の観光消費額の減少につながった。

(6) 経済波及効果(推計)

平成20年の生産誘発額は408,997百万円(対前年比▲0.8%)で、就業誘発効果は41,133人(対前年比▲5.6%)となった。

[表4] <生産誘発額・就業誘発効果>

	平成20年	平成19年	対前年比
生産誘発額	408,997百万円	412,353百万円	▲0.8%
就業誘発効果	41,133人	43,557人	▲5.6%

<参考>中津川市の製造品出荷額等 392,271百万円(H19県工業統計調査)
瑞浪市の人口 41,350人(H21.7.1推計人口)

2 飛騨・美濃じまん運動実施計画に掲げる目標の達成状況と今後の課題

「飛騨・美濃じまん運動実施計画」（平成20年3月策定）においては、「観光王国飛騨・美濃の実現」を目指すため、次の5つの目標を設定している。

「観光王国飛騨・美濃の実現」を目指すための5つの目標（飛騨・美濃じまん運動実施計画）

観光客数（実人数推計）	5,037万人(H18)	→ 20%増	6,000万人(H24)
宿泊数（実人数推計）	433万人(H18)	→ 20%増	520万人(H24)
観光消費額	2,810億円(H18)	→ 20%増	3,400億円(H24)
外国人宿泊数（延べ人数）	18.8万人(H18)	→ 40%増	26.0万人(H24)
観光に行ってみたい県	34位(H17)	→	20位以内(H24)

※「観光客数」、「宿泊数」、「観光消費額」、「外国人宿泊数」については、毎年実施している岐阜県観光レクリエーション動態調査の数値。「観光に行ってみたい県」順位は平成17年度に実施した「岐阜県地域ブランド調査」の結果。

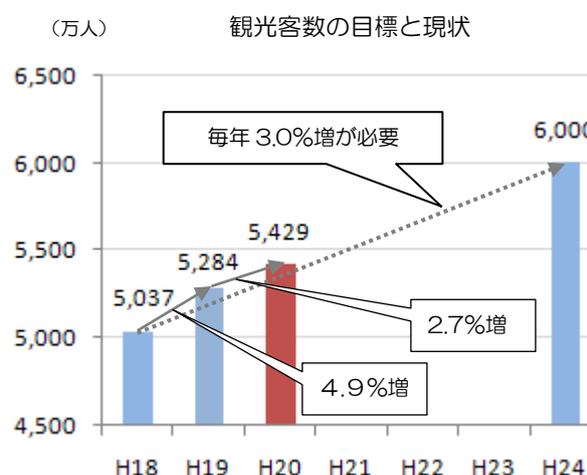
（1）観光客数 ～目標水準を上回って推移しているものの予断を許さない～

平成24年までに、観光客数を6,000万人（岐阜県観光レクリエーション動態調査ベース。以下、特に記述の無い限り同じ。）にするという目標を達成するためには、毎年、前年比3.0%の増加が必要となる。

その場合の、平成20年の目標観光客数は5,344万人となるが、平成20年の実績は5,429万人であり、目標水準を上回る状況にある。

しかしながら、前年比で見ると

2.7%増であり、その伸びは、平成19年（4.9%増）より鈍化しており、また、平成20年は「東海北陸自動車道の全通」という大きな増加要因があったこと、さらには同年秋から始まった世界的な景気悪化の先行きが不透明な状況であることを考慮すると、目標達成に向けて予断を許さない状況にある。



（2）宿泊客数 ～減少傾向が続いており目標達成に向けて厳しい状況～

平成24年までに、宿泊客数を520万人（年平均3.0%増）にするという目標を設定しているが、本県の宿泊客数は、平成17年以降連続して減少しており、

平成20年も前年比3.5%減の416万人となった。

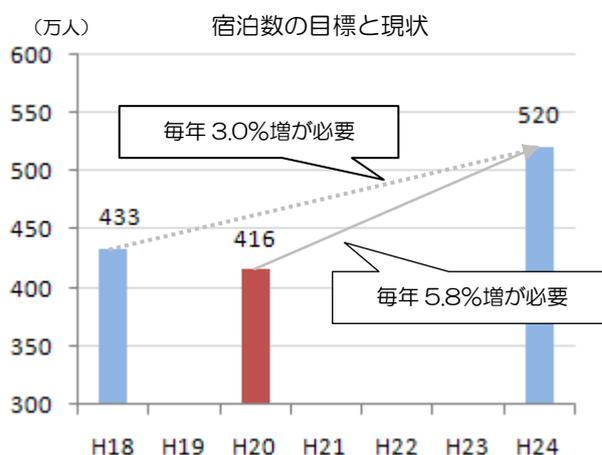
県が主要宿泊施設（19施設）を対象に、毎月実施している宿泊客調査をみると、平成21年に入ってから、減少傾向は続いており、新型インフルエンザの流行、景気の低迷により、むしろその傾向は強まっている。（前年同月比9割程度で推移）

現在の宿泊数の水準から、目標を達成していくためには、平成21年以降、毎年5.8%増加が必要であり、大変困難な状況にある。

なお、宿泊者数は全国的に平成12年前後を境に減少傾向にあるとされているが（（株）ツーリズム・マーケティング研究所推計等による）、国が平成19年から実施している宿泊旅行統計調査（※）においては、平成20年の本県の延べ宿泊者数が前年から1.3%減少する一方、国全体では0.1%の増加となっている。

さらに、同調査によれば、近隣県においても、北陸地方の石川県が20.0%、福井県が13.4%増、富山県が7.3%増と軒並み宿泊者数を伸ばしており、また三重県も13.1%増と増加していることから、本県においても、今後の対策如何によっては宿泊数が増加に転ずる可能性もあると考えられる。

（※）従業者数10名以上のホテル、旅館等を対象としており、本県の観光レクリエーション動態調査の数値とは一致しない。

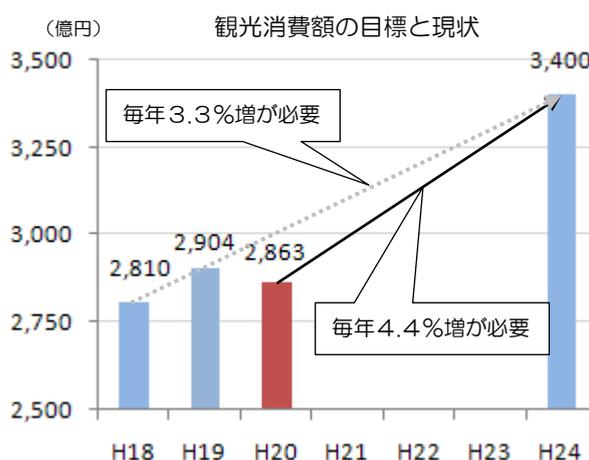


(3) 観光消費額 ～宿泊客の消費額が減少し、全体では横ばい～

平成24年までに観光消費額を3,400億円にするという目標に対し、平成20年は前年比1.4%減の2,863億円と、平成18年と同水準にまで落ち込んだ。

目標を達成するためには、今後、毎年前年比4.4%増を達成することが必要となるが、過去10年で、観光消費額が前年比4.4%増を達成したのは、愛知万博が開催された、平成17年のみ（次は平成13年の4.3%増）であり、厳しい状況にあるといえる。

過去3年間の観光消費額を日帰り・宿泊別で見ると、日帰り客の消費額が、平成1

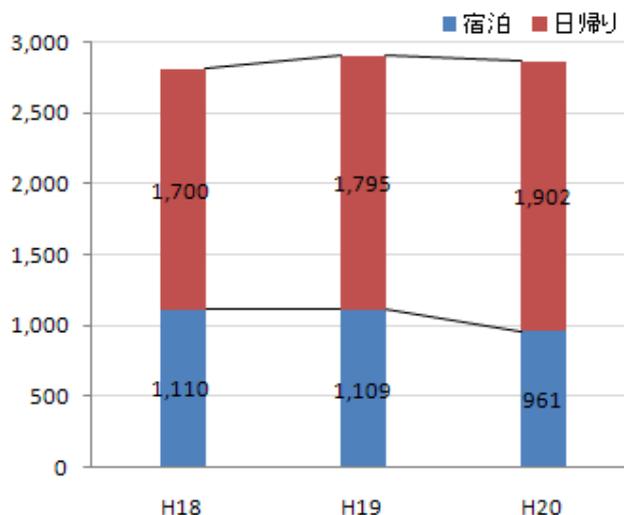


8年の1,700億円に対し、平成20年は1,902億円と順調に伸びているのに対し、宿泊客の消費額は平成18年が1,110億円に対し平成20年は961億円と大幅に減少している。

(2)で示したように、宿泊客そのものが減少していることが、消費額の減少要因となっているが、加えて、宿泊客一人当たりの消費額が平成18年の25,642円から平成20年には23,096円と、9.9%減少していることも、全体の消費額減少の要因となっている。

目標達成に向けては、宿泊客増加対策を図るとともに、付加価値の高い土産物、有料体験メニュー、着地型旅行等の開発など、個々の観光客に消費を促す施策も必要となる。

(億円) 観光消費額の推移(宿泊・日帰り別)



(4) 外国人宿泊数 ~目標を上回る水準で推移するも、秋以降減少傾向にある~

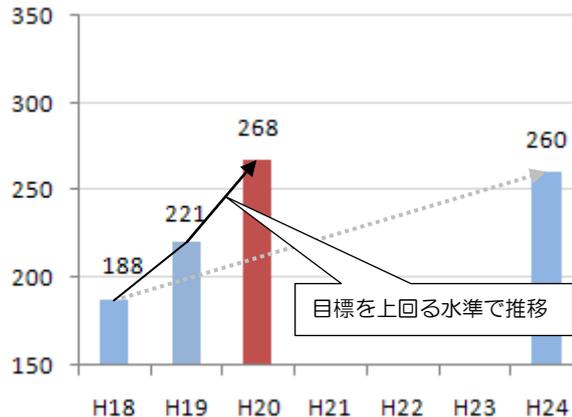
平成24年までに、外国人宿泊数(延べ)を26万人にするという目標に対し、平成20年の実績は、過去最高の26万8千人で前年比21.3%の大幅な伸びとなり、目標を超える水準に達した。

しかしながら、月別で見ると、8月までは前年同月比大幅増で推移してきたのに対し、世界的な景気低迷が始まった9月に、減少に転じており、以後、10月を除きは前年同月実績を割り込んだ。

国全体においても同様の傾向であり、日本政府観光局(JNTO)の訪日外客統計によれば、8月に前年同月比が減少に転じている。

同統計の推計値をみると、平成21年に入ってからその傾向は続いており、景気

(千人) 外国人宿泊数の目標と現状



の低迷に加えて、新型インフルエンザの影響等により、9月まで連続して前年同月を割り込んでいる。(1月～9月までの前年同期比は24.5%の減少)

こうしたことから、本県の外国人宿泊客数は、平成20年の段階で、既に目標を達成しているが、経済情勢、新型インフルエンザの動向によっては、平成21年以降は減少に転ずる可能性もある。

我が国が人口減少社会を迎え、国内市場が縮小する中、成長著しい海外からの誘客は、観光振興、特に宿泊客の増加に直結する重要な取組であり、岐阜県の様々な魅力を組み合わせる効果的に海外に発信し、誘客につなげていく必要がある。

(5) 観光に行ってみたい県

「観光に行ってみたい県」順位を、34位から20位以内を目指すこととしているが、(株)ブランド総合研究所が実施している「地域ブランド調査2009」(*)によれば、本県の「観光意欲度都道府県ランキング」は28位となっている。

同調査では、「観光意欲度」の他にも、「魅力度」「認知度」「情報接触度」「産品購入意欲度」といった、観光意欲度向上に関連する項目について調査を行っているが、本県の順位はいずれも30位前後(産品購入意欲度は42位)であり、「観光意欲度」を向上させていくためには、「魅力」そのものを磨き上げることと合わせて、「魅力」をいかに認知してもらうかが重要なポイントとなる。

また、国の宿泊旅行統計調査において宿泊者数が上位にランクされている都道府県の多くは、「地域ブランド調査2009」のこれら5項目においても上位にランクインされている(**)ことから、宿泊者増加対策の観点からも、本県の魅力をいかに発信し、認知してもらうか、戦略的な取組が必要と考えられる。

※「観光に行ってみたい県」順位は、平成17年度に本県が「岐阜県ブランド戦略」を策定するための基礎資料として、(株)ブランド総合研究所に委託して実施した「岐阜県地域ブランド調査」の結果によるものであるが、「岐阜県地域ブランド調査」については、それ以降実施していないため、同社が実施している「地域ブランド調査」における「観光意欲度都道府県ランキング」を参考指標とする。

※※宿泊者統計上位15位までの都道府県中

地域ブランド調査の5項目(「観光意欲度」「魅力度」「認知度」「情報接触度」「産品購入意欲度」)で

- ・5項目すべてが15位までにランクインした都道府県数：5
- ・4項目が15位までにランクインした都道府県数：5
- ・3項目が15位までにランクインした都道府県数：1
- ・2項目が15位までにランクインした都道府県数：2
- ・1項目が15位までにランクインした都道府県数：1

「地域ブランド調査2009」各項目順位と、宿泊旅行統計調査における宿泊数順位の比較

宿泊旅行統計調査 (観光庁)		地域ブランド調査2009 <観光関連5項目> (株式会社ブランド総合研究所)							
宿泊者数		魅力度	認知度	観光意欲度	情報接触度	産品購入意欲度			
1	東京都	35,958	北海道	東京都	北海道	東京都	北海道	北海道	
2	北海道	25,410	京都府	北海道	沖縄県	北海道	京都府	京都府	
3	大阪府	16,195	沖縄県	京都府	京都府	大阪府	沖縄県	沖縄県	
4	千葉県	14,856	東京都	大阪府	東京都	京都府	青森県	青森県	
5	静岡県	13,478	奈良県	奈良県	奈良県	宮崎県	宮崎県	宮崎県	
6	沖縄県	12,159	神奈川県	神奈川県	大阪府	沖縄県	静岡県	静岡県	
7	神奈川県	10,799	大阪府	沖縄県	長崎県	神奈川県	宮崎県	宮崎県	
8	愛知県	10,476	兵庫県	愛知県	福岡県	千葉県	山形県	山形県	
9	長野県	10,373	福岡県	兵庫県	長野県	奈良県	大阪府	大阪府	
10	京都府	9,110	長崎県	千葉県	宮崎県	愛知県	秋田県	秋田県	
11	兵庫県	8,720	長野県	静岡県	青森県	兵庫県	新潟県	新潟県	
12	福岡県	8,526	静岡県	福岡県	鹿児島県	新潟県	長崎県	長崎県	
13	福島県	7,685	宮崎県	長野県	神奈川県	福岡県	山梨県	山梨県	
14	新潟県	6,742	千葉県	埼玉県	兵庫県	静岡県	広島県	広島県	
15	宮城県	6,702	青森県	長崎県	静岡県	長野県	香川県	香川県	
29	岐阜県	3,528	31 岐阜県	28 岐阜県	28 岐阜県	27 岐阜県	42 岐阜県	岐阜県	
算 出 手 法 等	従業員数10人以上の ホテル、旅館等10,030施設を対象に調査 を実施。延べ人数集計	有効回収数 32,124人(20代~60代消費者を対象)に対するインターネット調査							
		問:「どの程度魅力を感じますか」? 算出式:100点×「とても魅力的」回答者割合+50点×「やや魅力的」回答者割合	問:「どの程度ご存じですか」 算出式:100点×「よく知っている」回答者割合+75点×「知っている」回答者割合+50点×「少しだけ知っている」回答者+25点×「名前だけ知っている」回答者割合	問:「今後、観光や旅行に行きたいと思いませんか」 算出式:100点×「ぜひ行ってみたい」回答者割合+50点×「機会があったら行ってみたい」回答者割合	問:「過去1年間に、情報、話題などを見たり聞いたりしたことがありますか」 算出式:100点×「何度も見聞きした」回答者割合+50点×「見聞きしたことがある」回答者割合	問:「それぞれの地域で、あなたが購入したいものがあれば、具体的な商品名をお書き下さい」(食品、食品以外の商品各3品まで) 算出式:(食品+食品以外産品記入数)/サンプル数×100			

3

「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組

1 平成20年度に実施した主な施策

(1) 新たな「じまん」の掘り起こし

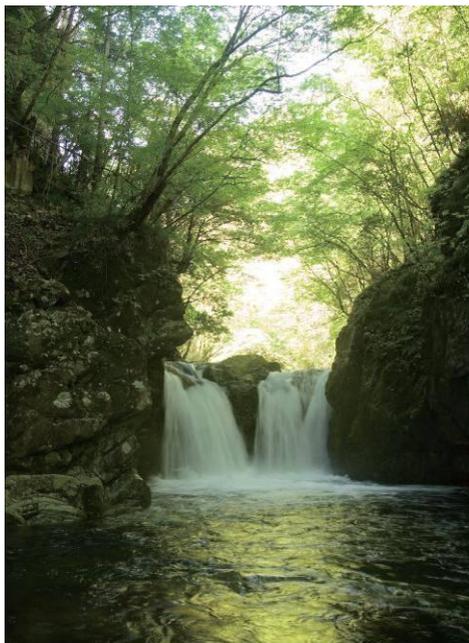
■岐阜の宝もの認定事業の展開

飛騨・美濃じまん運動を具体的に推進するため、県民一人ひとりが考えるふるさとのじまんと、全国に通用する観光資源として磨きをかけ、「岐阜の宝もの」として情報発信する岐阜の宝もの認定事業に取り組んでいる。

平成19年度には、1,240件を超える応募のあった「ふるさとのじまん」の中から今後の観光振興につながる27件を「じまんの原石」として選定した。

平成20年8月には、「じまんの原石」の中から現地調査や県民の皆さんからの意見を反映させ、「小坂の滝めぐり（下呂市小坂町）」を「岐阜の宝もの」第1号に認定したほか、他の観光資源との組み合わせや物語性を付加する取り組みが行われれば、「岐阜の宝もの」になる可能性があるものを、「明日の宝もの」として4件認定し、「飛騨・美濃じまんミーティング」で発表した。

また、新たな「じまんの原石」を発掘するため、平成21年1月～2月にかけて、「ふるさとのじまん」を募集したところ、571件の応募があり、3月に、各圏域に設置した、飛騨・美濃じまん地域会議において、「じまんの原石」候補として99件に絞り込まれた。（平成21年8月に新たな「じまんの原石」17件を選定）



飛騨・美濃じまん **岐阜の宝もの**
全国に通用する
県民が誇るふるさとのじまん

小坂の滝めぐり
Osaka Falls

「小坂の滝めぐり」下呂市

日本一滝の多い町である下呂市小坂町。豊富な雨量と落差の大きい溪流と森林からなり、そのため5m以上の滝が200ヶ所余りあります。中でも「日本の滝百選」の一つ「根尾の滝」を始め、「日本遊歩百選」の「濁河原生林遊歩道」、「森の巨人たち」の「天保の大ヒノキ」等素晴らしい自然環境がたくさんあります。「NPO法人飛騨小坂200滝」では、初心者から上級者まで楽しむことができる秘境滝めぐりガイドを行っています。

選定理由

- 1 圧倒的な自然を体感できる資源であること。
- 2 比較的交通の便がよく「下呂温泉」や「龍の窟」など、周辺の観光資源と結びつけることで、さらに磨きをかけることができること。
- 3 滝の数が日本屈指であり、「清流さふ」のイメージを発信することができること。
- 4 NPOによる環境整備やガイドツアーを実施していく体制が確立されており、初級、中級、上級へとステップアップしていく楽しさや、宿泊付きの滝めぐり講習など、体験型プログラムを数多く提供できる可能性があること。

あす
明日の
宝もの

「岐阜の宝もの」になると期待されるふるさとのおじまん

川原町界隈 | 岐阜市

岐阜県の長良川水系をめぐるプラットフォームとしての位置づけが可能です。この界隈をめぐることで、更に関、美濃、郡上へと足を運びたいくなる「川」の道」を地域連携により作り上げることができます。



Kawaramachi
Historic
Neighborhood



(岐阜公園周辺地域)



Yaatsu no Oyatsu

「八百津のおやつ」八百津町

「岐阜のお菓子、岐阜の和菓子」をもう一度作り上げ、そのお菓子と合う四季彩街道の白川郷とともに地元ならではの「おやつ」の原風景を作り上げ、「味わいめぐり」「食べ比べ」をすることができます。



Nakasendo

中山道 | 中津川市、恵那市、瑞浪市、大垣市

単に街道の歴史・文化を学ぶだけでなく、実際に各地をつなげることで見えてくる様々な人、もの、ことの流れを影にして、体験できる新たな道の「物語」づくりを行うことができます。



Gujo Ayu



「郡上鮎」郡上市

鮎はまさに清流を「古う」魚です。鮎を守ってきた生活文化、歴史、伝統を、ひるがの高原の分水嶺に端を発する長良川水系として地域をつなぎ、学び学習するエデュケーションal・エコツアーが可能です。



○認定プロセス

①専門委員による調査 (5/19~7/17)

「じまんの原石」現地調査、磨き方の検討

②県民意見の募集 (6/25~8/6)

「岐阜の宝もの」認定にあたり、「じまんの原石」に対する県民意見を募集

③飛騨・美濃じまんミーティングの開催 (8/23)

「じまんの原石」調査結果の報告。「岐阜の宝もの」「明日の宝もの」の認定・発表

○周知・PR

・「岐阜の宝もの」冊子の作成、配布

・「岐阜の宝もの」支援検討懇談会（東京会議）の開催(12/2)

県ゆかり及び東海地方に関係する出版、旅行関係者に「岐阜の宝もの」をPR。

・知事による雑誌社訪問・懇談（三推社）(2/16)

自動車雑誌、アウトドア誌を手がける(株)三推社を知事が訪問し、「岐阜の宝もの」などの観光資源、県産品をPR

→フェネック(アウトドア誌)3月初旬号に「小坂の滝めぐり」特集記事が掲載

【参考：じまんの原石】

[平成20年3月認定：27件]

川原町界限（岐阜市）、美濃竹鼻まつり・ふじまつり（羽島市）、各務原キムチで都市おこし（各務原市）、伊自良連柿・富有柿・おふくろ柿（山県市、瑞穂市、本巣市）、木曾川凧揚げ大会と木曾川エリア（笠松町、岐南町）、ベーめん（海津市）、谷汲門前町（揖斐川町）、中山道赤坂宿・木柙（大垣市）、「おちよぼさん」門前町（海津市）、徳山ダム（揖斐川町）、薬草（揖斐川町）、郡上鮎（郡上市）、食品サンプル（郡上市）、神と仏の里いとしろ（郡上市）、八百津のおやつ（八百津町）、四季彩街道（白川町）、美濃焼と日本酒の融合「美濃陶酔」（多治見市）、土岐市の窯元めぐり（土岐市）、中津川の栗きんとん（中津川市）、岩村城址と岩村城下町・温故知新 大正100年の誘い（恵那市）、馬籠宿・中山道（中津川市、恵那市、瑞浪市）、ふるさと体験飛騨高山（高山市）、棚田と板倉の風景と山里文化（飛騨市）、三湿原回廊（飛騨市）、ケイチャン（下呂市）、小坂の滝めぐり（下呂市）、龍の瞳（下呂市）

[平成21年8月認定：17件]

養老鉄道（大垣市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町）、フィールドミュージアムで魅力あるまちへ（関市）、笠原のタイル（多治見市）、美濃焼窯場めぐり（多治見市、土岐市）、羽島市歴史民俗資料館・羽島市映画資料館（羽島市）、中山道4宿（岐阜市、各務原市、瑞穂市）、中山道と太田宿、御嶽宿、伏見宿（美濃加茂市、御嵩町、可児市、坂祝町）、東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋（瑞穂市、恵那市、中津川市）、東山寺町と文化財めぐり（高山市）、乗鞍山麓五色ヶ原の森（高山市）、天生県立自然公園（飛騨市）、まちの名物つるむらさきうどん（関市）、山岡細寒天及び恵那山麓寒天豚（恵那市）、大垣の湧水・地下水（大垣市）、住吉燈台・船町港・赤坂港（大垣市）、水まんじゅう（大垣市）、水屋群などの風景と輪中文化（大垣市）

■飛騨・美濃伝統野菜の認証、PR

県下各地で古くから栽培されている野菜や果実等を「飛騨・美濃伝統野菜」として認証し、PRを行った。

<平成20年度実績>

- ・掘り起こし品目数 9、新たな認証品目数 2（現在の認証品目数27）
- ・PR用資材（のぼり）作成、イベントでのPR活動 4回（8月～11月）

■農業者による地域資源の掘り起こしを支援

中山間地域の埋もれた資源、新しい品目を掘り起こし、新たな産地づくり、ブランドづくりを進めるため、県内の3つの協議会の取組に対し支援を行った。

①美濃山県にんにく振興協議会(山県市)

にんにく農家の掘り起こし、にんにくの試験栽培を開始するとともに、食品加工業者と連携し、にんにく加工品の開発に向けた研究調査、試作品の開発を実施。

②伊吹百草ブランド化推進協議会(揖斐川町)

よもぎの栽培農家の掘り起こし、加工に適したよもぎ栽培に関する研究調査、食品加工業者と連携したよもぎの加工品試作開発を実施。

③郡上地域ブランド開発推進協議会

加工向けイチゴ、にんじんの栽培研究の他、食品加工業者と連携してイチゴ、にんじんを使った加工品の試作開発を実施。

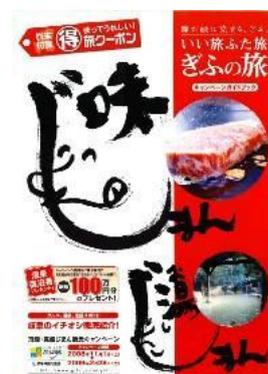
(2) 観光客の増加に向けた取組

■飛騨・美濃じまん観光キャンペーンの展開

観光客数の増加を目指して、知名度の高い飛騨高山、白川郷、下呂温泉などの観光資源に加え、「岐阜の宝もの」をはじめとする、新たな観光資源を活用した誘客事業を展開した。

○食と温泉 重点キャンペーンの展開(11月～2月)

- ・キャンペーンガイドブック「味じまん、お湯じまん」の作成・配布
9万部作成、キャラバン、道の駅、旅行店などで配布
- ・全国PRキャラバンの実施
重点キャンペーン期間中に、東京、大阪、名古屋等で13回実施
- ・旅の専門番組で岐阜の旅を放映
2/7 CS「旅チャンネル」で「食と温泉」の旅を放映
- ・旅行雑誌にタイアップ特集ページを展開
1/20 発売「旅」2月号で「食と温泉」の特集記事を掲載
- ・大手インターネット旅行サイトでタイアップ特集ページを展開
11/28～2/28 楽天トラベルで「食と温泉」をテーマとした特集ページを展開
- ・旅行商品造成支援、専用HPによる情報発信など



○近隣県等との連携による広域観光の推進

<富山県>

- ・広域観光マップ「岐阜と富山のめぐる一と」の作成、配布
17万部作成、キャラバン、道の駅、富山空港等で配布
- ・道の駅スタンプラリーの実施、共同観光キャンペーンの展開

<愛知県>

・岐阜県・愛知県産業観光スタンプラリーの実施

○民間と連携したドライブ旅行の推進

本県の交流人口の9割が、「車」での来訪者であることを踏まえて、トヨタ自動車(株)、JTB等から構成される企業コンソーシアムによる「うごく!岐阜<生>キャンペーン」と中日本高速道路(株)による「東海北陸道全通記念 ETC 周遊プラン」と連携し、ドライブ情報、特典クーポン、プレゼント企画等を掲載した岐阜ドライブガイドマップを作成・配布し、ドライブ旅行客の誘致を推進。

(6月21日～9月30日)



「うごく!岐阜<生>キャンペーン」
ロゴマーク

○産業観光の推進

平成20年7月11日に岐阜バス観光(株)と「産業観光の推進に関する協定」を締結し、8月から毎月1回「産業観光バスツアー」を実施した。(岐阜バス観光(株)において8ツアーを企画し、うち4ツアーを催行)

■新たに「飛騨・美濃観光大使」を2人に委嘱

岐阜県出身や岐阜県にゆかりのある著名人に観光大使を委嘱し、岐阜のPRを促進。

平成20年度は、新たに、シドニーオリンピック女子マラソン金メダリストの高橋尚子さん(11/9)、元五輪代表ショートトラック・スピードスケート選手の勅使川原郁恵さん(11/19)に委嘱。



高橋尚子さんに「飛騨・美濃観光大使」を委嘱
(11/9)

■「岐阜フィルムコミッション事業」の推進

ロケ地としての観光資源の発掘や新たな観光PRの手法として、映画やテレビ番組をはじめとする映像作品のロケ地誘致とロケ支援を行う「フィルムコミッション事業」を推進。平成20年度は、30作品の撮影を誘致した。

<誘致した主な作品>

○「ジェネラル・ルージュの凱旋」(撮影日:12/18～12/24) [映画]

監督:中村義洋(なかむら よしひろ)

出演:竹内結子・阿部寛・堺雅人・羽田美智子 他

概要:医療現場を舞台とした人気小説の映画化

ロケ地:岐阜市(岐阜大学医学部附属病院)

公開:平成21年3月7日公開

○「最後の戦犯」(撮影日:9/4、14～15、19) [ドラマ]

出演:ARATA、倍賞美津子、田辺誠一 ほか



「最後の戦犯」撮影風景

概要：最後の戦犯として裁かれた青年を主人公としたドラマ

ロケ地：岐阜市（岐阜総合庁舎）、土岐市（美新窯、千峰園ほか）等

TV局：NHK名古屋放送局

放送日：平成20年12月7日(日)

■中山道プロジェクトの展開

「明日の宝もの」に認定された、「中山道」の魅力を体験することができる環境を整備するとともに、ウォーキングイベント、ガイドマップの作成等PR事業を展開した。

○統一デザイン案内標識の設置

- ・美濃中山道連合（中山道沿線14市町・保存会等4団体）の協力を得て中山道案内標識の統一デザインを決定
- ・統一デザイン案内標識を12基、市町では29基を設置

○散策ガイドを10,000部作成

○中山道ウォーキングスタンプラリーの実施（11/15～2/1）

○「勅使川原郁恵さんと歩こう！中山道ウォーキング」の開催（11/20 瑞浪市大湫宿・琵琶峠）



■グリーン・ツーリズムの推進

「都市と農村の交流」による、農山村地域の活性化を図るため、グリーン・ツーリズムを推進した。

○受入体制の整備

- ・子ども農山漁村交流プロジェクト（総務省・文科省・農水省連携）の受入体制を整備（郡上市及び高山市の受入協議会が国モデル地域に選定（20年4月））
- ・農家が運営し、農林漁業体験メニューの提供を行い、地域の農林水産物の食事を提供する民宿などを登録する県独自制度「岐阜県農林漁業体験施設登録制度」（19年6月創設）を推進し、72施設を登録
- ・取組団体のレベル向上を目的に研修会を開催（2/25、80名参加）
- ・農村と企業（都市住民）との交流、協働活動を推進する「ぎふ一村一企業パートナーシップ運動」を一層推進するため、「ぎふ一村一企業パートナーシップ運動登録制度」を創設（21年3月）し、県内4団体を登録。

○情報発信の強化

- ・旅行事業者や雑誌等の編集者にグリーン・ツーリズムの取組を紹介するために「ぎふの田舎へいこう！」プロモ



- ーション交流会を開催（20年1月、郡上市・高山市 11社 14名参加）
- ・企業や都市住民に対して農村情報を提供するメルマガ「ぎふの田舎へいこう！」通信を創刊（20年4月）
- ・メルマガ創刊記念キャンペーン（20年5月～6月）を実施し、配信登録者のうち30名に県産品をプレゼント
- ・岐阜県農林漁業体験施設をPRするため、当該施設利用者を対象に「ぎふの田舎へいこう！」キャンペーンを実施（20年7月～9月）し、50名に県産品をプレゼント

■小学生の農山漁村での長期宿泊体験の受入れ推進

全国2万3千校の小学生120万人が、農山漁村で1週間程度の長期宿泊体験活動を行うことを目指す、国の「子ども農山漁村交流プロジェクト」を推進した。

- 平成20年度選定受入モデル地域の受入活動を支援
 - ・郡上・田舎の学校（郡上市）
 - ・ふるさと体験 飛騨高山（高山市）
- 受入地域拡大に向けた推進活動の展開
 - ・東白川村、白川町、下呂市、白川村など

■海外誘客戦略推進事業、国際観光対策事業の推進

岐阜県の認知度を高め、海外から岐阜県への観光誘客を推進するため、国の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(VJC)や近隣県と連携しながら、台湾、中国、韓国、香港、フランス等を重点市場と位置付け、国別の市場特性に応じた誘客活動を展開した。

- メディア・旅行業者の招聘
 - ・「Yokoso!Japan トラベルマートファムトリップ」(春2回、秋2回。参加国:中国、香港、台湾、韓国、タイ、シンガポール、インドネシア、マレーシア、オーストラリア、フランス、イタリア、デンマーク、ロシア、カナダ)など
- 国際観光展等への出展・PR
 - ・中国国際旅遊交易会 2008 出展(中国)(中部広域:11月)
 - ・高雄国際旅行博への出展(県観光連盟:4月)
 - ・台北国際旅行博への出展(中部広域:11月)
 - ・江西省での岐阜県紹介展開催(県:11月)
 - ・「モンドユ・パリ」(フランス)出展(県:3月)
 - ・ベルリン国際見本市出展(ドイツ)(中部広域:3月)
- 教育旅行の受入れ、関係者招聘、ハイレベルミッションの派遣等
 - ・教育旅行受入れ実績:11回(620名)

- ・受入れ国:中国、台湾
- ・訪問先:岐阜市、大垣市、関市、美濃加茂市、恵那市

(3) 県産品、農林産物のブランド力・販売力強化

■岐阜県ブランド戦略に基づき、チームの派遣等によるブランド化支援

岐阜県ブランド戦略に基づき、ブランド構築に取り組む方々（中小企業者、生産者、組合、生産振興会、商工会議所・商工会、市町村等）からの要請に応じ、関係部局が連携してチームを派遣し、個別具体的な支援を実施した。



ブランド戦略推進チーム活動の様相
(八百津のおやつ)

<派遣先>

- キムチ日本一の都市おこし研究会（各務原キムチ）

派遣回数 H19：3回、H20：4回

- 八百津町商工会（八百津のおやつ）

派遣回数 H19：5回、H20：5回

- 荘川そば振興組合（荘川そば）

派遣回数 H20：3回

<支援内容>

ブランド化計画策定に向けた取組み支援、販路開拓に向けたPR支援等。



■「飛騨・美濃すぐれもの」認定、販売促進

優良な県産品を「飛騨・美濃すぐれもの」として認定し、県産品の看板商品としてPRするとともに、百貨店催事やイベントへの出展など消費者と直結した販売戦略を展開した。

- 「飛騨・美濃すぐれもの」の募集、認定。

平成20年度末認定数：115点（食品105点、非食品10点）

- 販売、PR支援

- ・県産品PR事業を活用し、百貨店・量販店等への出店支援。
- ・楽天市場ショップへの出店支援。
- ・飛騨・美濃すぐれものPR冊子作成。
- ・フリーマガジнтаイアップ広告事業。
- ・GKプロジェクト（岐阜県ーキリンビール共同プロジェクト）で活用PR。

■「県産品愛用推進宣言の店」の指定

県産品愛用による地産地消を推進するため、積極的に取り組む店舗の普及・活動を支援するとともに、県民の県産品に対する理解と認識を深め、県産品の消費拡大を図った。

<平成20年度の取組み>

平成21年3月末現在で、222店舗を指定

■「ぎふ清流国体」に向けた地域ブランドの研究開発の推進

平成24年に開催される「ぎふ清流国体」に向けて、地域ブランド品実用化のための取組をスタートした。

取組	目標	平成20年度の取組
国体に彩りを添える「花き新品種」の育成	○新品種登録（平成23年度までに） ・切り花：3品種 岐阜県を代表するバラ、トルコギキョウ ・鉢花：2品種 見た目が鮮やかで、日持ちの良い品種	○バラ新品種「エ克蘭」(宝石箱)を育成（H20.8.6 登録出願済） ○新品種の育成・選抜 ・ミニバラ大輪系の有望系統（1系統）を選抜・実証試験 ・トルコギキョウ「ひだの雪姫」の色違い4系統を選抜・評価
「夏秋イチゴ」の高品質安定生産技術の確立	○高温期における栽培管理技術の確立 ・収量の向上及び安定化 現状：1.5t/10a→目標：2.5t/10a ○県オリジナル品種の育成 ・県外既存品種「夏実(民間企業育成)」に対抗できる新品種の育成	○高温期における栽培試験等を実施 ○県オリジナル品種の選抜・評価
早生「甘カキ」の高品質安定生産技術の確立	○「早秋」の結実・収量安定 ・現状：150kg/10a→目標：1.5t/10a ○「太秋」の汚損果の発生抑制（全収量比） ・現状：30～50%以上→目標：30%以下	○生理落果発生対策（早秋） ・若樹の仕立て方法による生理落果抑制対策の検討 ・人工受粉に向けた受粉樹の選定 ○雄花着花・汚損果発生対策（太秋） ・剪定方法、袋かけ栽培等の検討
大粒「クリ」の新品種（ぼろたん）を使った加工技術及び病虫害発生抑制技術の開発	○新しい加工品及び加工技術の開発 ・和菓子・洋菓子等新しい加工品の開発 ・一般家庭向け調理方法の検討（料理レシピの紹介、味覚を損なわない加工方法の検討など） ○病虫害果の発生抑制（全収量比） ・現状：30%→目標：10%以下	○菓子業者との連携による加工品の開発を開始 ・クリそのものの外観、形状及び素材の味をそのまま活かした商品 ○東濃地域の生産者等による「東美濃ぼろたん研究会」設立（H20.11.5） ○苗木の本格導入開始（現地及び研究所）300株（80a分）
県産豚肉の高品質化技術の確立	○霜降り豚肉の開発 ・牛肉の「サシ」のような付加価値化 ○ドリップロス(肉汁漏出)低減技術の開発 ・店頭販売時のドリップロス低減 目標：現状の50%削減 ・ナタネ粕を用いた飼料の効果確認 ・開発飼料による飼養管理技術の確立	○霜降り豚肉の開発に向けた種豚群を開発中 ・霜降りに関連する遺伝子を持つ種豚を選抜 ○ドリップロス低減飼料の開発中 ・ナタネ粕の混合により、ドリップロスの低減を確認。配合率や飼養方法を研究中。

カジカの養殖技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○採卵安定化・量産化技術の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・国産時：60,000尾の供給 ○新たな地域特産品の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・温泉旅館と連携した地域特産物作り 	<ul style="list-style-type: none"> ○特産品化を目指した商品開発中 <ul style="list-style-type: none"> カジカ養殖研究会会員との連携を実施（下呂市、飛騨市の14個人・団体で構成） ○研究会会員向け稚魚の生産・供給を増加 ○最適な採卵・生育環境条件を調査中
ぎふ清流国体に向けた新しい陶磁器食器の開発	<ul style="list-style-type: none"> ○環境負荷低減エコ食器の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・廃食器配合率の向上 現状：20%→目標：50%以上 ・焼成温度の低下 現状：1,250℃→目標：1,150℃以下 ・温室効果ガス 従来比15%以上削減 ○軽量強化磁器食器の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・磁器食器特性の向上（強化磁器食器比） 重量：20%減、熱伝導率：50%以下 	<ul style="list-style-type: none"> ○廃食器粉末を高配合化したリサイクル素地特性を調査中 <ul style="list-style-type: none"> ・廃食器配合率50～70%試験実施 ・曲げ強度、密度等を試験中 ○焼成安定化に向けた軽量強化素地の組成検討中 <ul style="list-style-type: none"> ・密度減少のための米澱粉配合素地の試験を実施

■「全国伝統的工芸品まつり・ぎふ」の開催 ～第25回伝統的工芸品月間国民会議全国大会～

全国の伝統的工芸品を一堂に展示・販売するとともに、岐阜県の伝統的工芸品や郷土工芸品を全国に向けてPR。併せて「食」と「温泉」をはじめとした県内各地の「飛騨・美濃じまん」を広く紹介し岐阜県の魅力をPRした。

○開催期間

平成20年11月13日（木）～16日（日）

○総入場者数

98,100人

○内容

- ・伝統工芸ふれあい広場・ぎふ、全国くらしの工芸展・ぎふ
全国各地の伝統的工芸品の展示・製作体験、販売
- ・日本伝統工芸士会作品展
全国の伝統工芸士による新作コンクール・作品展
- ・飛騨・美濃工芸品展
岐阜県内の国指定伝統的工芸品、県指定郷土工芸品の展示・販売、製作実演・製作体験、工芸品と「食」を絡めた企画展示、テーブルコーディネート展示（新商品発表）、岐阜提灯の新商品発表
- ・楽市楽座
「食」と「温泉」をテーマとした岐阜県観光物産展を開催

■農産物トップブランドづくり（かき、くり、宿儺かぼちゃ）の推進

	目的	平成20年度の取組
かき	富有柿最高の品質である「袋掛け富有柿」をトップブランドに育成することにより、岐阜柿全体の生産拡大および生産者の経営安定に結びつける。	<p>～袋掛け富有柿の新たなブランド「果宝柿」命名～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「袋掛け富有柿」のなかで、大きくて（350g以上）、赤くて（カラーチャート値7以上、うまい（糖度18度以上目標）ものを、新たなブランド柿として、名称を「果宝柿」に決定（1,245件の応募の中から決定）し、発表。（10/25岐阜県農業フェスティバル会場内） ・首都圏等での販路調査・PRの実施 「果宝柿」出荷実績 256個
くり	渋皮が取れやすいという特性を持つ新品種「ぼろたん」の作付拡大や、大苗生産技術の開発を通じて、県内のくり産地のさらなる活性化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「第27回全国クリ研究大会岐阜県大会」を開催（平成20年8月7～8日、中津川市内） ・新品種「ぼろたん」の苗木導入（平成20年秋）
宿儺かぼちゃ	「宿儺かぼちゃ」を、飛騨地域の、ほうれんそう、夏秋トマトに次ぐ第3の品目として位置づけ、関係機関と連携して、生産組織の組織強化、生産技術の高度化、販路拡大支援を進め、宿儺かぼちゃの産地化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・産地化計画を作成し、地域の各関係機関連携による取り組みを開始。 ・抑制栽培技術を実証し、普及のため研修会を開催するとともに、栽培マニュアルを作成、配布。 ・関東、関西地区にて市場動向調査を実施するとともに、販促PRのため関東地区でバイヤー等を対象に試食会を開催。



「果宝柿」

■県産農産物等のPR、認知度向上

【地産地消フェアの開催、イメージアップ活動の推進など】

○地域農産物を東京圏でPRするため「飛騨美濃ふれっしゅ直行便」を金山総合駅（名古屋市）等で開催した。（金山総合駅イベント広場3回、東海北陸自動車道・関SA1回）

○県産農産物等のイメージアップを図るためTV番組等や県外でのイベントを通じてPRを行った。

- ・「うまいの極み」（CBCテレビ放送、アサヒビール提供）、「月一金ラジオ2時6時」（岐阜放送ラジオ、キリンビール提供）、「匠な逸品」（テレビ愛知）
- ・「岐阜の宝ものフェア」開催実績：彦根市（8/29～31）、富山市（10/25～26）、



飛騨美濃ふれっしゅ直行便
（金山総合駅イベント広場）

東京都港区（11/25）

○農産物直売所の販売促進を図るため、研修会等を開催した。

【大消費地を対象としたイメージアップの推進】

○農業者等による大消費地での販売促進活動への支援を行った。

- ・農業団体の行う首都圏、関西圏、中京圏での新規販路開拓に向けた県産農産物等PRや商談会などの開催を支援した。【H20実績：首都圏・関西圏・中京圏等の消費者を対象に8回実施】
- ・農業団体の行う関西圏、中京圏、北陸圏の量販店での取扱数量拡大に向けた、県産農産物フェア開催等を支援した【H20実績：関西圏23店舗、中京圏37店舗、北陸圏1店舗】
- ・農業者等が行う地域で埋もれている農産物等の知名度向上に向けたPRツール作成などを支援した。【H20支援対象品目：郡上鮎、飛騨高冷地野菜、宿儺かぼちゃ、美濃白川茶】

■「ふるさとのじまん農産物」づくりの推進

商品性が高く、地域自らが自慢する農産物「ふるさとのじまん農産物」を選定し、農業改良普及センターがコーディネート機能を発揮して農業者、市町村、農業者団体等に対し、「ふるさとのじまん農産物」づくりに向けた意識を醸成するとともに、普及指導員が持つ高度な技術を生かした栽培指導や、流通関係・実需者へのPR等を行い生産振興を図った。

<ふるさとのじまん農産物>

アスパラガス（岐阜、西濃）、なばな（西濃）、山菜（揖斐、郡上）、ブラジル野菜（中濃）、青ねぎ（中濃）、円空さといも（中中濃）、ブルーベリー（中中濃）、夏秋いちご（郡上）、春まちにんじん（郡上）、くり（東濃）、夏秋なす（東濃）、マコモタケ（土岐）、宿儺かぼちゃ（飛騨）、飛騨黄金（飛騨、下呂）

■県産品の料理指定店・販売指定店を拡大促進

飛騨牛、奥美濃古地鶏等の消費拡大のため、料理指定店・販売指定店を拡大。

区分		17年3月 (計画初年度)	21年3月	増加数
飛騨牛	料理指定店(H2~)	125店舗	150店舗	25店舗
	販売指定店(H元~)	212店舗	228店舗	16店舗
奥美濃古地鶏	料理指定店(H6~)	47店舗	53店舗	6店舗
	販売指定店(H6~)	55店舗	57店舗	2店舗

飛騨けんどん	料理指定店 (H10～)	13店舗	24店舗	11店舗
美濃けんどん	販売指定店 (H10～)	53店舗	55店舗	2店舗
飛騨清流河ふぐ	取扱料理店 (H12～)	10店舗	12店舗	2店舗

■新たな農産物加工ビジネスの展開を目指した専門家の派遣

中山間地域等で農産加工や都市農山村交流などに取り組む農林漁業者等の組織に対し、生産から販売、経営に至る専門家のチームを派遣し、多角的かつ総合的な支援を行った。

<支援内容>

経営、商品開発・企画、販路開拓、マネージメント、生産・製造技術の専門家を派遣し、現地指導・助言等を行う。

<派遣先>

- ・白鳥町園芸特産振興会（郡上市）・・・商品化・販路開拓、経営マネージメント
- ・美味作（東白川村）・・・加工品開発（地域食材、洋菓子）
- ・恵那の味・つたえ隊（恵那市）・・・加工品開発（地域食材・洋菓子）
- ・山之村牧場株式会社（飛騨市）・・・施設マネージメント、経営マネージメント
- ・久野川管理組合（下呂市）・・・施設マネージメント、経営マネージメント

■ぎふの木で家づくりの推進

県産材の利用促進を図るため、住宅の梁・桁等の構造材に一定量以上の県産材を使用した建築主に対し、経費の一部を助成した。（平成20年度実績：100棟）

■「ぎふ証明材」のブランド化推進

平成19年度から認証を始めた「ぎふ証明材（※）」の安定供給を促進するため、梁・桁等の横架材について規格化を行った。

※ぎふ証明材：岐阜県産材であることに加えて、森林法などの法令に照らし合わせて適正に伐採されたことを証明された木材。

■アジアにおける県産農産物等の輸出拡大

岐阜県農林水産物輸出促進協議会（※）が中心となり県産農産物等の販売促進とブランド化を推進するため、香港の量販店において、岐阜県農産物フェアを開催。

平成20年度は、香港へ飛騨牛を初輸出し、知事等トップセールスにより飛騨牛の販売ルートを構築。また、ミネラルウォーター「高賀の森水」の輸出についての商談が成立。

- ・岐阜県農産物フェア 11/7～9、富有柿フェア 11/26～12/3
- ・柿輸出货量 11 t（対前年比 138%）、飛騨牛輸出货量約 370kg（6頭）



岐阜県農産物フェア（香港）

(※)岐阜県農林水産物輸出促進協議会：県農産物・加工食品の輸出促進を目的に平成16年度に設置。構成は、県、農業団体、食品産業団体、ジェトロ等8団体

(4) まちづくり・地域づくり支援

■「まちづくり支援チーム」の派遣等による、まちづくり支援の推進

ぎふまちづくり応援プラン（平成19年3月策定）に基づき、地域主体で行われるまちづくりに対する一元的な相談窓口「まちづくり総合窓口」の設置や、実際に現地に赴き各地域の実情を伺いながらその地域に見合った支援策を住民の方々とともに考える「まちづくり支援チーム」の派遣及び外部専門家などによる相談や調査を行う「まちづくりアドバイザー派遣」を行った。

【まちづくり支援チームの派遣】

○揖斐川町谷汲門前地区（H19.6～）

かつての、活気・にぎわいのある町を取り戻すため、門前町に相応しい街並みづくりと交流人口の増加に資する様々な取組（イベント等）を支援する。

<20年度派遣実績> 延べ20回



○飛騨市宮川種蔵地区（H19.6～）

飛騨市が整備を進める大型民家、板倉を移築改修した宿泊施設を地域で運営し、地域の維持、活力の創出につなげていくことができるよう、その仕組みづくりを支援する。

<20年度派遣実績> 延べ11回



<谷汲門前地区>
参道（町道）、県道（山本本集線）
の一体的な整備がなされた谷汲山
華厳寺門前の町並み。

○郡上市石徹白地区（H19.9～H21.3 派遣終了）

かつて、白山信仰の拠点として栄えた石徹白地区の活力再生に向けて、地域が一体となって取り組んでいけるよう、地域が共有できる長期的な地域づくりビジョン（石徹白ビジョン）の策定及び実践を支援する。

<20年度派遣実績> 延べ18回

○土岐市駄知地区（H20.5～）

陶磁器産業を活用した産業観光、まちづくりを進め、交流人口の増加による地域経済の活性化、陶磁器産業のブランド力向上を図るため、駄知地域産業活性化プランの策定及び実践を支援する。

<20年度派遣実績> 延べ17回

○下呂市馬瀬地区（H20.5～）

日本一の鮎、美しい農村景観、清流馬瀬川、人気の高い温泉等豊富な地域資源を活用して、地域に経済的な活力を生み出していくため、第2次馬瀬地方自然公園

づくり計画の策定及び実践を支援する。

< 20年度派遣実績 > 延べ14回

○御嵩町御嶽宿地区（H20.9～）

地域内の歴史資源である旧中山道御嶽宿、願興寺のほか、近隣のみたけの森、中山道謡坂等の資源を活用しながら、まちなみ整備（御嶽宿地域景観等整備指針の策定・実践）、拠点施設等の整備、誘客宣伝等を進め、交流人口の増加に向けた取組を支援する。

< 20年度派遣実績 > 延べ8回

【まちづくりアドバイザーの派遣】

地域住民やNPO、任意団体等が、市町村と連携してまちづくりの推進に関する研修会等を行う際に、外部有識者（専門家）をまちづくりアドバイザーとして派遣し、地域が主体となった地域資源の発掘、評価、活用方策等について助言を行った。

< 平成20年度派遣実績 > 延べ16回

■移住・定住の推進

観光による来訪をきっかけとし、本県の魅力を体験することにより、都会から人を呼び寄せ、地域の振興を図ることを目的に、移住・定住推進事業を実施した。

移住・定住総合相談窓口の設置、専用ホームページの開設、東京・大阪・名古屋でのPRのほか、全県を挙げて移住・定住を推進するために市町村との連携組織を設立した。

○岐阜県移住・定住推進会議の開催

- ・日時：平成21年1月30日
- ・場所：岐阜県県民文化ホール未来会館
- ・内容：「岐阜県移住・定住推進会議」設立総会、基調講演（岐阜経済大学教授）、事例紹介（和歌山県）

■県都岐阜市の玄関口の賑わい創出に向けた取組

県下の中心市街地活性化に向けた起爆剤とするため、県都岐阜市の玄関口であるJR岐阜駅周辺地域におけるにぎわい創出のため、JR東海、岐阜市その他の関係者を構成員とする「JR岐阜駅周辺施設連携促進協議会」を設立し、イベントシリーズ街が“つながる”キックオフイベント（H20.9.14～15）の実施、駅周辺施設全体のガイドマップの作成などを行った。



「街がつながる」キックオフイベントの様

■電線類地中化事業の推進

安全で快適な通行空間の確保、都市災害の防止、歴史的町並の保全等都市景観の向上を図るため、第5期無電柱化推進計画に基づき、道路上の電線等の地中化を推進した。

- ・第1期（S 6 1～H 2）： 7. 3 0 k m
- ・第2期（H 3～H 6）： 7. 6 1 k m
- ・第3期（H 7～H 1 0）： 1 7. 5 1 k m
- ・第4期（H 1 1～H 1 5）： 2 2. 1 8 k m
- ・第5期（H 1 6～H 2 0）： 1 3. 1 4 k m

<H20年度施工>

- ・（国） 1 5 8 号 高山市片原町～愛宕町
- ・（主） 岐阜美山線 岐阜市早田大通
- ・（一） 恵那停車場線 恵那市大井町～正家
- ・（一） 可児停車場線 可児市下恵土
- ・（主） 岐阜関ヶ原線 岐阜市徹明通

■美しいひだ・みの景観づくりの推進

地域の自然や歴史と調和した景観の保全を図るため、市町村の景観行政団体への移行、景観計画の策定を支援するとともに、屋外広告物対策の推進、景観シンポジウムの開催等を実施した。

○県内景観行政団体： 1 2 団体、景観計画： 7 市 1 村が策定（平成 2 1 年 3 月末現在）

○平成 2 0 年度景観シンポジウム

- ・日時：平成 2 0 年 1 0 月 2 9 日（水）
- ・場所：可児市文化創造センター
- ・内容：基調講演「日本人の風景観」、パネルディスカッション
テーマ：「市民がつくるこころの景観」



景観シンポジウム パネルディスカッション

○屋外広告物対策の推進

9月10日の「屋外広告の日」にあわせて県下全市町村において一斉に違反広告物の簡易除却及び街頭是正指導を実施。（平成 2 0 年度除却件数：1, 087 件）

■重要伝統的建造物群保存地区の保全を支援

国が選定した重要伝統的建造物群保存地区 5 地区について、当該市村の保存事業に関し指導助言を行うとともに、修理・修景などの保存修理事業に対して補助を実施した。

<重要伝統的建造物群保存地区>

- ・恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区
- ・高山市三町伝統的建造物群保存地区
- ・高山市下二之町・大新町伝統的建造物群保存地区
- ・美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区
- ・白川村荻町伝統的建造物群保存地区

■ 棚田の保全活動の推進

棚田保全に対する意識向上を図るため、棚田の魅力や保全活動の必要性を普及し、都市住民等に活動参加を促すなど棚田保全活動の推進、支援を実施した。

○ 普及啓発活動

- ・「ぎふの棚田 21 選」認定
- ・ぎふ水土里の展示会
- ・ぎふ水土里の体験スタンプラリー

○ 棚田保全活動組織への支援

- ・坂折棚田保存会（恵那市）
- ・北山集落（八百津町）
- ・滝町棚田保存会（高山市）
- ・種蔵を守り育む会（飛騨市）



(5) ふるさとの誇りづくり

■ 岐阜県文芸祭における「飛騨美濃じまん部門」の実施

平成20年度より、岐阜県文芸祭に「飛騨美濃じまん部門」を新設し、ふるさと岐阜県の風景、生活、民俗、伝承、歴史上の人物など、岐阜県の自慢話や岐阜県の魅力を伝える作品を「飛騨美濃じまん部門」として実施した。

- ・応募総数631点 <飛騨美濃じまん賞10点。奨励賞14点。佳作23点>

■ 社会教育文化施設における企画展示

ふるさとへの誇りと愛情を醸成するために、博物館、美術館において、岐阜県ゆかりのテーマによる企画展示を実施した。

○ 博物館

- ・ぎふの旅いまむかし展（4/26～6/22）
- ・岐阜県のやきもの展（1/24～3/22）
- ・発掘された飛騨・美濃の歴史展（11/18～1/12）の開催

○ 美術館

- ・田口コレクション展 I（3/11～5/11）

- ・熊谷守一展（9/12～10/26）の開催
- ミュージアムひだ
 - ・山とひだびと雲上の頂に挑む展（7/19～9/15）等の開催

■「岐阜県の地芝居ガイドブック」の作成

岐阜女子大学と連携して、県下各地の地歌舞伎、獅子芝居、人形浄瑠璃（文楽）及び能狂言の紹介誌「岐阜県の地芝居ガイドブック」を発刊し、インターネットで公開した。（平成21年3月）



岐阜県の地芝居ガイドブック

■ぎふ清流国体・ぎふ清流大会県民運動「ミナモ運動」

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の開催気運を盛り上げ、全国から訪れるたくさんの人々を温かくお迎えし、思い出に残る大会とするための県民運動「ミナモ運動」の指針となる、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会県民運動推進計画（愛称：ミナモ運動推進計画）の策定に向けた取組を実施。

- ・平成20年9月～12月
 - 全市町村との意見交換（”県民運動の種”発掘ミーティング）
 - ・平成21年3月6日
 - 県民運動・広報専門委員会（※1）において原案を審議
 - ・平成21年3月2日～16日
 - パブリック・コメントの実施
 - ・平成21年3月24日
 - 第9回常任委員会（※2）において審議・決定
- （※1）（※2）は、第67回国民体育大会岐阜県準備委員会の内部組織
 <「ミナモ運動推進計画」3つの分野 6つの運動>



3つの分野	6つの運動
おもてなし	①心をこめたおもてなしをしよう ②ふるさとのじまんを発信しよう
スポーツ・健康	③ミナモと歌って踊ろう ④スポーツを楽しもう、健康な体をつくろう
美しい環境と清流	⑤ふるさとの清流を守ろう ⑥まちをきれいにし、花でかざろう

（6）飛騨・美濃じまん運動のPR等

■「飛騨・美濃じまん推進大会」の開催

飛騨・美濃じまん運動を周知し、地域資源の掘り起こし、ふるさとの魅力の再発

見に資するため、県内各地の地域活性化・まちづくりの活動発表会と先進地のキーパーソンによる講演会を開催した。

○開催日：平成21年3月1日

○参加者：まちづくり団体、商工会職員、市町村職員等

○概要

・飛騨・美濃じまん活動発表会・交流会

(発表事例) 小坂の滝めぐり [NPO法人飛騨

小坂200滝]、八百津のおやつ[八

百津町商工会]、中山道大井宿 [中

山道46の会]、神と仏の里いと

ろ [石徹白地区地域づくり協議会]、

下呂市馬瀬地域の地域づくり [馬瀬地方自然公園づくり委員会]

・飛騨・美濃じまん講演会

講師：セーラ・マリ・カミングス氏 (株) 柘一市村酒造場取締役

長野県小布施のまちおこしについて



■様々な広報媒体を活用した「飛騨・美濃じまん」の発信

○ラジオ

「野口五郎の GORO'S CAFE」制作放送

東海北陸 FM4 局ネット(岐阜 FM、FM 愛知、FM とやま、FM 石川)※7/5～11/29 まで毎週土曜日(計 22 回)放送。岐阜、富山にゆかりのある有名人をゲスト出演(19 名)

○テレビ

・フジテレビ系列の人気番組「サザエさん」を活用し、「飛騨・美濃じまん」を紹介(10/5 から 3/29 までの日曜日 計 24 回)

・岐阜放送で「岐阜の宝もの」「じまんの原石」関連の特集・お知らせ(毎月放送)

・中京テレビで誘客番組「DAI*HANA のもつとぎふ! 体感マップ」制作、放送[5/4、8/3、10/26、12/21、2/22]

○大手ショッピングサイトの楽天市場「まち楽」において岐阜県の観光情報等を PR(H21. 1. 16～)

○フリーペーパー

・県内外の主要フリーペーパー(咲楽[岐阜・愛知県内の各地域版]7、9月号、ぷらざ7、9、11、12、1、2月号、富山情報7月9日号、9月17日号、金沢情報7月9日号、福井情報7月9日号等)、中京圏向けレジャー情報雑誌(東海ウォーカー9月16日号等)、全国向け情報誌(観光経済新聞6月7日版、旅の

手帖7月号、ガルヴィ1月号 等)、行政機関誌(都道府県展望10月号)へ情報を提供し、記事として掲載

○岐阜県メールマガジンにおいてイベント・観光情報等を発信(毎月発行)

2 飛騨・美濃じまん運動の推進体制

みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例

(じまん運動を進めるしくみ)

第四条 県は、じまん運動の方向性などを検討するしくみとして飛騨・美濃の観光を考える委員会(以下「委員会」といいます。)をつくります。

2 県は、飛騨・美濃全体にかかわるじまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん県民会議(以下「県民会議」といいます。)をつくります。

3 県は、市町村などと協力して、それぞれの地域で、じまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん地域会議(以下「地域会議」といいます。)をつくります。

4 県民会議と地域会議は、一体となってじまん運動を進めます。

■ 飛騨・美濃の観光を考える委員会

会長：須田寛 東海旅客鉄道(株)相談役

委員：交通、マスコミ、観光業界、市町村等で構成

第1回 日時 平成20年11月17日

議題 ①飛騨・美濃じまん運動の状況及び主要事業について
②岐阜の宝もの認定プロジェクトについて

第2回 日時 平成21年2月26日

議題 ①平成20年度飛騨・美濃じまん運動の状況について
②平成21年度飛騨・美濃じまん運動の概要及び主要事業について
③平成21年度 観光振興主要事業について

■ 飛騨・美濃じまん地域会議

【岐阜圏域】

第1回 日時 平成20年11月28日

議題 ①今後の飛騨・美濃じまん運動の取り組みについて
②岐阜地域の取り組みについて

第2回 日時 平成21年3月23日

- 議題 ①「岐阜の宝もの」候補の選定について
②新たな「じまんの原石」候補の選定について
③岐阜地域の今後の観光振興について

【西濃圏域】

- 第1回 日時 平成20年11月28日
議題 ①会議設置要綱の改正について
②飛騨・美濃じまん運動について
③西濃圏域の「じまんの原石」の育成支援について
- 第2回 日時 平成21年3月19日
議題 ①「岐阜の宝もの」認定プロジェクトの今後の進め方について
②新たな「岐阜の宝もの」候補の選定について
③新たな「じまんの原石」候補の選定について

【中濃圏域】

- 第1回 日時 平成20年5月15日
議題 ①東海北陸自動車道全線開通キャンペーンについて
- 第2回 日時 平成20年9月16日
議題 ①「ぎふ中濃ドライブフェア」開催結果について
②「岐阜の宝もの」について
③「中濃圏域キーワードクイズ事業」について
④中濃圏域の観光施策について
- 第3回 日時 平成21年3月24日（火）
議題 ①中濃圏域キーワードクイズの結果について
②平成20年度中濃圏域観光PRアンケート集計結果について
③新たな「岐阜の宝もの」の推薦候補について
④新たな「じまんの原石」の推薦候補について

【東濃圏域】

(飛騨・美濃じまん東濃推進会議)

- 第1回 日時 平成20年8月1日（金）
議題 ①平成20年度「岐阜・東濃フェスティバル」開催について
②「岐阜の宝もの」認定プロジェクトについて
③「飛騨・美濃じまんミーティング」～岐阜の宝もの認定式～について
④「飛騨・美濃じまん運動」実施計画の策定について
⑤「観光圏整備事業」について
⑥「東濃ぐるりんバス」事業について
- 第2回 日時 平成20年11月27日（木）
議題 ①平成20年度「岐阜・東濃フェスティバル」開催について

- ②「岐阜の宝もの」認定プロジェクトについて
- ③「東濃ぐるりんバス」事業の状況報告について
- ④「観光圏整備事業」について

第3回 日時 平成21年3月18日(水)

- 議題
- ①「岐阜・東濃フェスティバル in セントレア」の開催結果について
 - ②「岐阜の宝もの」認定プロジェクトについて
 - ③「じまんの原石」への推薦について

(ワーキンググループ会議)

第1回 日時 平成20年4月24日(木)

- 議題
- ①「ぎふ・東濃フェスティバル in セントレア」の結果について
 - ②今年度の各市の観光施策について
 - ③伊那・木曾・東濃交流連携会議について
 - ④まちじまん事業候補地の募集について
 - ⑤「飛騨・美濃じまん発表大会」の結果及び「飛騨・美濃じまん運動実施計画」について

第2回 日時 平成20年9月24日(水)

- 議題
- ①平成20年度「岐阜・東濃フェスティバル」開催について
 - ②「岐阜の宝もの」認定専門委員調査結果報告及び提案について
 - ③第4回岐阜・東濃の観光と物産展の開催について
 - ④「東濃ぐるりんバスツアー」前期予約状況及び後期コース詳細について

第3回 日時 平成21年2月9日(月)

- 議題
- ①「じまんの原石」の取組状況について
 - ②「飛騨・美濃じまん」の新規公募について
 - ③平成20年度「岐阜・東濃フェスティバル」の開催について
 - ④「なごやかサロン・ぎふ 四水会」(東濃圏域の日)について
 - ⑤「飛騨・美濃じまん推進大会」開催のお知らせについて
 - ⑥「東濃ぐるりんバス」事業の実績報告について

【飛騨圏域】

第1回 日時 平成21年3月18日(水)

- 議題
- ①「飛騨・美濃じまん運動」及び「岐阜の宝もの認定プロジェクト」について
 - ②「岐阜の宝もの～小坂の滝めぐり～」にかかる取組状況について
 - ③平成21年度「岐阜の宝もの」候補の選定について
 - ④平成21年度「じまんの原石」候補の選定について

<参考資料>

平成19年7月9日公布
岐阜県条例第39号

みんなてつくろう観光王国飛驒・美濃条例

私たちは、古くから「飛驒の国、美濃の国」と呼ばれてきたこの岐阜県を愛してやみません。

この地は、春には桜色に包まれ、夏には深い緑におおわれ、秋には森は赤や黄色に染まり、平野は黄金色に輝き、冬には白く雪化粧をするなど、自然の生みだす五色の彩りに恵まれています。

この地には、日本人の心のふるさとの原風景がいたるところにあります。

この地は、日本の東西交流の中心地として、重要な歴史の舞台になってきました。地の利をいかした独自の文化が育まれ、商いも活発に行われてきました。

そして、太平洋側と日本海側を南北に結ぶ交通網が充実する今日、飛驒・美濃は、日本の東西南北の交流の中心として、明日の舞台になろうとしています。

おりしも、団塊の世代の人々の癒しや自らの再発見を求めたふるさと回帰が進んでいます。

さあ、飛驒・美濃にとって大交流時代の幕開けです。

日本のふるさとの良さをすべて持った飛驒・美濃が、県内外の人たちに癒しを与え、心にゆとりを与えるところとして輝くときです。

観光は、単に観光産業だけではなく、製造業、農林水産業など、幅広く地域経済へ効果をもたらす、すそ野の広いものであり、みんなで大切に育てるべきものです。こうした観光による交流を広げる取組は、明日のふるさとづくりにつながります。

飛驒・美濃には、森林、河川、温泉などの素晴らしい自然、歴史、文化、産業など、日本の貴重な財産として、世界に誇れるものが満ちあふれています。

私たちは、自信を持って、各地から多くの人たちにこの地へ観光に訪れていただくため、総力をあげて、飛驒・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛驒・美濃じまん運動を進めます。そして、飛驒・美濃を、誇りの持てるふるさとへと発展させていくため、観光王国飛驒・美濃を私たちみんなてつくります。

(めざすもの)

第一条 私たちは、飛驒・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛驒・美濃じまん運動（以下「じまん運動」といいます。）に取り組むことで、観光産業を基幹産業として発展させ、もって飛驒・美濃の特性をいかした誇りの持てるふるさとをつくります。

(合い言葉)

第二条 私たちは、「知ってもらおう、見つけだそう、創りだそう ふるさとのじまん」を合い言葉に、じまん運動にみんなで取り組みます。

(県の役割)

- 第三条 県は、じまん運動についての総合的な施策を定め、計画的に取り組めます。
- 2 県は、県民、市町村、観光事業者、観光に関する団体などが、共通の認識のもとお互い連携できるよう、総合的な調整を行います。
 - 3 県は、道路をはじめとした交通網など、観光に必要な基盤を整備します。

(じまん運動を進めるしくみ)

- 第四条 県は、じまん運動の方向性などを検討するしくみとして飛騨・美濃の観光を考える委員会（以下「委員会」といいます。）をつくります。
- 2 県は、飛騨・美濃全体にかかわるじまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん県民会議（以下「県民会議」といいます。）をつくります。
- 3 県は、市町村などと協力して、それぞれの地域で、じまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん地域会議（以下「地域会議」といいます。）をつくります。
- 4 県民会議と地域会議は、一体となってじまん運動を進めます。

(知ってもらおうふるさとのじまん)

- 第五条 私たちは、ふるさとのじまを県内外の人たちに知ってもらうため、あらゆる機会を利用して積極的に情報を発信します。
- 2 私たちは、豊かな風土に育まれた農林水産物、匠の技により作りだされた地場産品などを積極的に活用するとともに販売します。

(見つけだそうふるさとのじまん)

- 第六条 私たちは、ふるさとの隠れたじまを見つけたすため、ふるさについて学びます。
- 2 私たちは、次の時代を担う子どもたちがふるさに誇りを持つことができるよう、学校、地域、家庭などさまざまなところでふるさと教育を進めます。

(創りだそうふるさとのじまん)

- 第七条 私たちは、ふるさとのじまを素敵なものに育てるとともに、新しいふるさとのじまを創りだします。
- 2 私たちは、地場産業や地域産業が活発になるよう、ふるさとの特性をいかしたブランド力のある商品の開発に取り組みます。

(おもてなしの心)

- 第八条 私たちは、「いい旅 ふた旅 ぎふの旅」をキャッチフレーズに、飛騨・美濃に一人でも多くのお客様に何度でもお越しいただき、楽しんでいただくため、一人一人がおもてなしの心でお客様をお迎えします。

(美しい自然を守る観光)

- 第九条 私たちは、豊かで美しい自然を守るとともに、自然を観察したり体験しながらそのしくみを学び、大切にす観光を積極的に進めます。

(ふるさとの文化にふれる観光)

- 第十条 私たちは、古いまちなみや素晴らしいふるさとの文化などを大切に、後世に伝えるとともに、お客様にこの文化にふれていただける観光を積極的に進めます。

(ものづくりの心にふれる産業観光)

- 第十一条 私たちは、伝統技術を持つ匠の技や歴史的・文化的な価値の高い工場、機械設備などのものづくりの現場や製品などを通じて、ものづくりの心にふれる産業観光を積極的に進めます。

(周りの地域や団体との連携)

- 第十二条 私たちは、一人でも多くのお客様にお越しいただけるよう、周りの地域や広域的な観光に関する団体と連携し、協力してお客様をお迎えします。

(世界中の人たちとの交流)

- 第十三条 私たちは、観光施設の案内や表示をできるだけ多くの言語で書き表すなど、外国からのお客様に心から楽しんでいただけるよう心がけます。
- 2 県は、世界中から多くのお客様にお越しいただけるよう、外国との文化・経済交流、青少年の交流などを積極的に応援します。

(お客様にやさしいまちづくり)

第十四条 県は、市町村などと協力して、バリアフリーのやさしいまちづくりを進めるなど、年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、お客様に楽しくすごしていただけるよう心がけます。

2 私たちは、観光施設のトイレをきれいにするなど、お客様に気持ちよく観光をしていただけるよう心がけます。

(飛騨・美濃じまんの日)

第十五条 県は、8月21日を飛騨・美濃じまんの日とします。

(飛騨・美濃じまん運動実施計画)

第十六条 県は、じまん運動を計画的に進めるため、飛騨・美濃じまん運動実施計画を定めます。

2 県は、飛騨・美濃じまん運動実施計画を定めるときや変更するときは、委員会と県民会議の意見をききます。

(飛騨・美濃じまん白書)

第十七条 県は、毎年度、じまん運動の成果を白書としてまとめ、評価や検証をし、次の運動につなげていきます。

(その他)

第十八条 この条例に定めることのほか、必要なことについては、知事が定めます。

附 則

1 この条例は、平成十九年十月一日から施行します。

2 岐阜県観光審議会設置条例(昭和四十二年岐阜県条例第三十八号)は、廃止します。

平成21年度版 飛騨・美濃じまん白書

～平成20年度 飛騨・美濃じまん運動の進捗について～

岐阜県 観光交流推進局

平成21年12月